

# Publisher's Review

パブリッシャーズ・レビュー

●東京大学出版会・白水社・みすず書房のPR紙●



## みすず書房の本棚

[無料送付]

No. 22 2017 春

(表示価格は税別です)

113-0033 東京都文京区本郷 5-32-21 tel. 03-3814-0131 http://www.msz.co.jp

### 近代に抗う切出小刀

土田昇『職人の近代』を読む

齊藤道雄

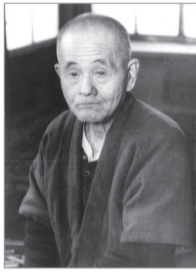


三嶋大社境内にて是秀と太郎  
落合宇一撮影

読みはじめて数ページしたところで、これはちよつと手に負えないなと恐れをなした。職人の世界でもことに陶器や刃物関係は恐ろしい人たちがたくさんいる。そのなかでも大工道具鍛冶として不世出の名工、千代鶴是秀を描いた著作について自分に向かいえるのか、と。しかし読み終わったときには、不思議な満足感がこつた。

千代鶴是秀の技術と作品をたどりながら、本書は一見その分野に向けた専門書のようにみえる。しかしその内実は、大工道具のプロである著

者が、是秀の残した作品から鍛冶名工の変容を解き明かす、スリリングな過程が折り重なった上質なミステリーだ。しかもミステリーとみえた筋立てのなかには、職人と道具、技術を通して近代の変容を読み解く、さらなるミステリーが折り重ねられている。



千代鶴是秀

明治七年生まれの千代鶴是秀は、一歳で刀剣鍛冶である八代目石堂寿永のもとに弟子入りする。しかしすでに廃刀令が布かれていた時代にあって、はじめから刀ではなく鑿(のみ)や鉋(かん)を作る道具鍛冶となつた。昭和三年に八四歳で没するまで大工道具を作りつづけ、鍛冶技術の頂点を極めた職人とされる。刀から大工道具への転進と聞けば、私のような素人はつい、仕事のレベルが下がるのではないかと思ってしまう。それがあさはかな思い

がいであることは本書を読めばよくわかる。大工道具鍛冶はその当時であつても、すでに刀鍛冶とは別な高度な技術レベルに達していたのである。名工の成功譚ならほかに類書があるだろう。本書が際立つのは、職人として頂点を極めた鍛冶が、ある時期から作風を変容させたことに注目し、それはなぜかを丹念に読み解いてゆく、その過程にある。しかもそれが文献や証言だけにとどまらず、千代鶴是秀作の鑿や鉋といった「物証」を芯に進められるところに、この著者でなければ書けない作品との出会いの醍醐味がある。

著者の土田昇さんは、仕事柄ときどきは秀の名品を研ぐ機会があるといる。その「絶妙」な感触をこう伝えている。

るように、著者は本書を書きすすめていく。道具を実用する大工たちから圧倒的な評価を得ながら、なぜは秀は、およそ実用には適さない切出を「自由で、流麗で、有機的な雰囲気をもつデザイン切出小刀を、戦前から昭和の戦後にかけて、戦時もとぎれず作りつづけたのか。

著者独特の、滔滔と流れるようなやわらかな語り口にうっかり油断すると、不意打ちをくらうことになる。

一人の大工鍛冶と人生のある瞬間を交差させた、あるいはその作品を熟望し、所有した芸術家や文化人、職人や名大工たち。直接かかわりを持たないながら、同じ職人の世界に生きた人々。これほどまでに多彩な人物群像だけでも驚きだが、彼らが織りなした時間の集積が、近代化という号令のもとに変質を遂げていった明治以後の日本の、ある芯をかたちづけていたことを目の当たりにして、驚愕することになる。

近代化の「外皮と骨格の矛盾」の中で、時代の推移に対応しつつ、一方で、どんなに世の中が変わろうと、その流れに安易に身をまかせず、技術の芯を守る強靱さ。「最後の名工」の逸脱の試みを描く。カラー口絵8頁。「工芸・美術・日本近代史(四六判・320頁・三七〇〇円)

平成二六年二月、著者は、高村光雲や朝倉文夫はじめ多くの彫刻家に石膏原型を作つた石膏型取師、宮嶋一の遺族から一丁の切出小刀を譲りうける。

「形状は短冊の一边を斜辺としただけの単純きわまりないものです。薄手でウラスキも一般的な仕様で、すなわち何のデコレーションもありません。実用道具として必要充分の単純さが、かえって限らない清潔感をただよわせています。唯一、実用性とは無関係なものとして、タガネによる切銘が、丹精で癖のない文字で刻まれています。」

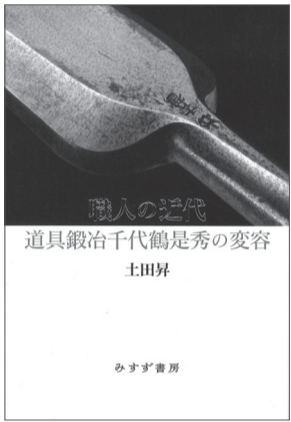
為、宮嶋先生 昭和五年夏

千代鶴是秀(二八七四—一九五四)の息子、若くして自死した太郎の作であるこの一本の切出小刀に誘われ

## 鍛冶文化の豊かさを伝える

土田昇

《職人の近代 道具鍛冶千代鶴是秀の変容》



「工芸・美術・日本近代史(四六判・320頁・三七〇〇円)

▽ご送付先の変更の際は、お名前・新住所・旧住所と、お届けしました本紙の帯封コードを、お手数ですがみすず書房営業部までご連絡下さい

読むだけではたどりつけない、是秀についてのたしかかな感触をつかみとっているのではないだろうか。土田さんの目には、切出(きりだし)小刀という、大工道具というよりは日用品に近い、余技、遊びであるかのような刃物のなかにこそ、千代鶴是秀という鍛冶名工の追い求めてきたものが凝縮され、映し出されている。しかも是秀は、日用品としても用をなさないと思えるほどに変形し「逸脱」した切出小刀を作っている。それはなぜなのか。

答が、さらなる疑問を呼び起こしてゆく。著者がくり返し指摘しているように、「時代に多くの影響を受けながら名工、名人が形づくられる」のだとするなら、その時代とは何なのか、時代は職人をどのように変えたのか、そもそも技術というものが私たちの世の中をどう変容させてきたのか、そうした疑問がとりとめもなく広がり、読後の反芻は終わることがない。

建築現場から鑿や鉋が消え、ほとんどの作業を電動工具が行う時代には、是秀のような職人はもう現れないだろう。しかし本書を読むかぎり、そこに寂寥はない。なぜなら千代鶴是秀もまた激動する時代を生き、電動工具以上の技術革新の大波を超えてきたと知るからだ。そこで多くのものを失いながら、切出小刀を作りつづけてきたと知るからだ。私にはそれが職人の、というよりは体温をもつ人間のつつましさのように思えてならない。それは近代が失い、いままた別な形で探し求めているものではないかと思うのである。(さいとう・みちお ジャーナリスト)





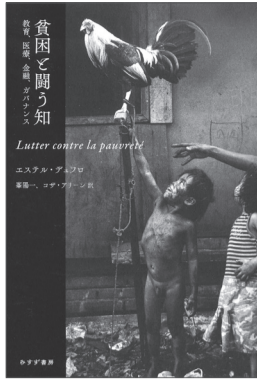


書評コラム

『みすず』二〇一六年 月刊雑誌『みすず』一、二月合併号では毎年「読書アンケート」特集を組み、ご好評をいただいています(本面右下に「案内」)。本年146名のご回答中、小社刊行書への評価をいくつかご紹介いたします。(敬称略、順不同)
▽草光俊雄『歴史の工房』
この本を読むことができて、まるで生きていてよかったです、しみじみ思う。こういう歴史家には、本格的な歴史叙述は出来ないだろうと思つた(喜安朗)。(他に川端康雄、富士川義之、近藤和彦)
▽ギンズブルグ『ミクロストリアと世界史』上村忠男訳 本書を、読んで後景にしりぞいて

てしまった(矢野久美子)
(他に三島憲一、松本潤一郎、前田耕作、喜安朗、市村弘正)
▽御園生涼子『映画の声』尋常でない知的緊張感と完成度(田中純)
(他に成田龍一、鈴木布美子)
▽道場親信『下丸子文化集団とその時代』工作者的な運動そのものとも見えるような著者道場の真摯な言葉によって、詩と運動の結びつきが、歴史の窪みから浮かびあがってきて見事(新城郁夫)
(他に川本隆史、栗原彬)
▽コンパニオン『書簡の時代』中地義和訳、いま加速度的に遠ざかりつつある二十世紀への愛惜であり、レクイエム(小沼純一)
(他に宮下志朗)
▽バージヤール『果報者ササル』村松潔訳 医療やひとが生

きる意味をめぐって、現在までの間に何か大きなものがあるか、失われたのではないか(江口重幸)
(他に野田正彰)
▽内田博文『治安維持法の教訓』著者は治安維持法違反のケースを分析しつつ、戦前戦中もはとより現在も、違憲立法審査制度がないことを指摘(鎌田慧)
(他に三島憲一、前田耕作)
▽今福龍太『ヘンリー・ソロー 野生の学舎』(柿沼敏江、山宏)
▽ホーフスタッター『アメリカの反知性主義』田村哲夫訳(佐藤文隆、山形浩生)
▽斎藤道雄『手話を生きる』(川那部浩哉)
▽松隈洋『建築の前夜』(鈴木一)など。紙幅に限りがあり、ご紹介します。ご一読下さい。



ランダム化比較実験(RCT)の手法を駆使して、常識を覆しつつある開発経済学の最前線をコンパクトに紹介し、貧困削減の具体的政策を提言する。
インド、マラウイ、ケニア、メキシコ、バングラデシュでの実践が明らかにしたのは……ワクチン接種キャンペーンをもっと効果的にするには？ 低コストで子どもたちの教育を改善するには？ 出勤しない教師や看護師にどう対応する？ マイクロクレジットは貧農を救う魔法の処方箋か？ 村落集会所はほんとうにコミュニティの自己決定を強化しているのか？

開発経済学の最前線

エステル・デュフロ

《『貧困と闘う知 教育、医療、金融、ガバナンス』》

峯 陽一/コザ・アリーン訳

「コンセプトの明快さ、柔軟性、そしてそれが政策と研究の交差点に位置していること」によって、ランダム化比較実験は特別に豊かで汎用性が高い道具になった。本書ではこうした実験について報告することで、人間開発の挑戦に新たな光を当てることにしたい。この探究を進めるにあたって、私たちはアクターの行動や動機を豊かさを明らかにしようと試みる。これらをよく理解することによって、私たちは、より効果的な政策を立案するための道筋を提案できることになるだろう」
(第一部の序)

前著『貧乏人の経済学』につらなる入門書。『経済』(四六判・216頁・二七〇〇円)
▽既刊より バナジー/デュフロ『貧乏人の経済学』もういちど貧困問題を根っこから考える(山形浩生訳)(三〇〇〇円)
外山健太郎『テクノロジは貧困を救わない』松

驚異の書『病める舞姫』を読みとく

宇野邦一(土方巽 衰弱体の思想)



「舞踏に対するさかんなエキゾチスムに込めることも、土方巽の前衛性を既知の文脈でノスタルジックに語ることも私の課題ではない。土方巽の舞踏が身体と生命をどのように問題化したかという問いにむきあうことは、六八年の反乱のコンテクストをこえ地域性をこえて表現にとって本質的な課題でありうる。消費情報、グローバルイズムに翻弄される世界で(身体が何をな

本裕訳(本紙二面に広告)
みとく。アルト、ジュネそしてドゥルーズの翻訳・研究者であり、晩年の舞踏家と交流した著者による哲学的肖像にして土方巽論の集大成。『現代思想・舞芸芸術』(A5判・264頁・五二〇〇円)



資本家の誕生から二〇〇八年金融危機まで、三〇〇年にわたる世界の経済の歴史をマンガで語る、初の試み。資本主義はいつ、どうして始まったのか？ 共産主義と社会主義の違いは？ 「債務」が生じるのはなぜ？ 経済はまだ成長する？ 「完全雇用」って何？ どうして不況が続くのか？ ウォール街占拠運動の顛末は？ コルベール、ケネー、アダム・スミス、リカード、マルクス、ケインズ、ニコソン、毛沢東、ブッシュ、オバマetc. 世界の歴史の流れをつくった経済理論、事件や出来事、思想家や学者、政治家が続々登場。明瞭な解説とユーモラスなコマを迫ってゆけば、経済の基礎知識が身につく。

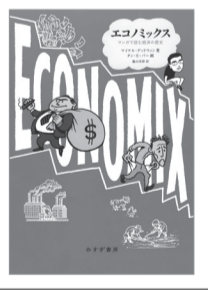
世界中の怒れる市民に読まれるロングセラー

マイケル・グッドウィン ダン・E・パー画
《『エコミックス マンガで読む経済の歴史』》
脇山美伸訳



が深まるにつれ、世界史の流れに大きな影響をおよぼしてきた経済の思想と力関係に興味を抱き、経済にまつわる本を古典から新刊まで読み漁った。歴史の流れに重ね読みこむうち、しだいに一つのストーリーが頭の中に浮かび上がり、「これをみんなに伝えたい！」と本書の執筆に没頭。実力派の漫画家ダン・パーの力を借りて、ユニークで力強い経済史コミックが出来あがった。

二〇一二年にアメリカで刊行されるや口コミSNSで評判をよび、読者をじわじわ広げて話題作に。現在17カ国で翻訳され、大きな格差を生み出す経済システムに疑問を抱く、静かに怒れる人びとに読まれるロングセラーに。フランスでは本国アメリカを上回る五万部越えを記録中だ。中高生の初めての経済の教科書として、経済は苦手な大人の入門書として、学び直したいサラリーマンにも読みごたえのあるまったく新しい経済史。「著者がこの本で、マンガによる初めてのノーベル経済学賞を受賞することになっても、驚かないでほしい」
ジョエル・ペイカン(法学者)『経済・ビジネス・社会一般』(三月下旬刊)(B5変型判並製・312頁・三〇〇円)



「『みすず』から生まれた本 本紙二面でご紹介する『レイディミカ』子どもたちの階級闘争」二面に広告掲載の斎藤貴男『失われたもの』、上掲の宇野邦一『土方巽』、また昨年大きな反響をよんだ保坂和志『試行錯誤に漂う』(二七〇〇円)、いずれも月刊雑誌『みすず』の多彩な連載から生まれています。
■『みすず』購読のご案内
本誌は原則として郵送による年間購読をお願いしています(年11回発行、一年間の購読料三七八〇円、税・送料込)。「読書アンケート」特集号のみご希望の方は、切手四二〇円分(送料込)を直接、みすず書房営業部『みすず』係(〒113-0033 東京都本郷5-32-21)までお送り下さい。バックナンバーは、小社営業部まで在庫をお問い合わせの上お求め下さい。

月刊雑誌 『みすず』 最近号より
特集「2016年読書アンケート」辻山良雄/佐々木力/関口すみ子/細川周平/外岡秀俊/藤井省三/上村忠男/榎本伸明/五十嵐太郎/名和小太郎/小西正捷/永田洋/高橋悠治/立石真也/齋藤誠/小澤実/永江朗/斎藤成也/竹内洋/根本彰/飯田隆/山口二郎/富原真弓/服部文祥/國分功一郎/生井英考/加藤幹郎/小沼通二/岡田秀則/坂内徳明/平尾隆弘ほか(一・二月合併号)。「ベルンハルトの小説を舞台にかけろ」(三月号)。(各三〇〇円)

「『みすず』から生まれた本 本紙二面でご紹介する『レイディミカ』子どもたちの階級闘争」二面に広告掲載の斎藤貴男『失われたもの』、上掲の宇野邦一『土方巽』、また昨年大きな反響をよんだ保坂和志『試行錯誤に漂う』(二七〇〇円)、いずれも月刊雑誌『みすず』の多彩な連載から生まれています。
■『みすず』購読のご案内
本誌は原則として郵送による年間購読をお願いしています(年11回発行、一年間の購読料三七八〇円、税・送料込)。「読書アンケート」特集号のみご希望の方は、切手四二〇円分(送料込)を直接、みすず書房営業部『みすず』係(〒113-0033 東京都本郷5-32-21)までお送り下さい。バックナンバーは、小社営業部まで在庫をお問い合わせの上お求め下さい。

書評ほか各紙誌等で紹介されました

- ネルー『父が子に語る世界歴史』4 大山聰訳 ¥2700
庄司太郎氏(週刊ダイヤモンド 12月3日号)
保坂和志『試行錯誤に漂う』 ¥2700
大竹昭子氏(朝日新聞 12月4日) 佐々木敦氏(日本経済新聞 12月4日) 町田康氏(週刊エコノミスト 12月20日号)
サートン『70歳の日記』 幾島幸子訳 ¥3400
小林聡美氏(サンデー 毎日 12月4日号) 島崎奈央氏(暮しの手帖 12-1月号)
御園生涼子『映画の声——戦後日本映画と私たち』 ¥3800
東京新聞 12月9日夕「大波小波」
道場親信『下丸子文化集団とその時代』 ¥3800
石原俊氏(図書新聞 12月17日) 東京新聞 12月9日夕「大波小波」 東京新聞 12月24日
レーン『生命、エネルギー、進化』 齊藤隆史訳 ¥3600
佐倉統氏(朝日新聞 12月11日) 瀬名秀明氏(週刊ダイヤモンド 12月31日・1月7日合併号)
シュトレック『時間かせぎの資本主義』 鈴木直訳 ¥4200
伊東光晴氏(毎日新聞 12月11日) 諸富徹氏(朝日新聞 12月25日) 吉田徹氏(北海道新聞 12月25日) 週刊ダイヤモンド 12月31日・1月7日合併号「ベスト経済書」第15位
池内紀『亡き人へのレクイエム』 ¥3000
井波律子氏(毎日新聞 12月11日)
長田弘『幼年の色、人生の色』 ¥2400 毎日新聞 12月13日夕

- バージャー/モア『果報者ササル——ある田舎医者のお話』 村松潔訳 ¥3200 中村桂子氏(毎日新聞 12月18日)
柴田真希都『明治知識人としての内村鑑三』 ¥7500
月本昭男氏(読売新聞 12月18日、12月25日)
松隈洋『建築の前夜——前川國男論』 ¥5400
五十嵐太郎氏(朝日新聞 12月25日) 松原隆一郎氏(毎日新聞 1月22日) 日本経済新聞 12月25日
グレッグ『ルシアン・フロイドとの朝食——描かれた人生』 小山・宮本訳 ¥5500 横尾忠則氏(朝日新聞 12月25日)
今福龍太『ヘンリー・ソロー 野生の学舎』 ¥3800
佐倉統氏(朝日新聞 12月25日)
レディカー『奴隷船の歴史』 上野直子訳 ¥6800
且敬氏(読売新聞 12月25日)
吉増剛造『怪物君』 ¥4200 倉石信乃氏(東京新聞 12月25日) 水無田氣流氏(東京新聞 12月25日)
ラウスティアラ/スプリグマン『パクリ経済——コピーはイノベーションを刺激する』 山形・森本訳 ¥3600
週刊ダイヤモンド 12月31日・1月7日合併号「ベスト経済書」第20位
レヴィ・ストロース『野生の思考』 大橋保夫訳 ¥4800
NHK-Eテレ(教育)「100分de名著」12月放送
外山健太郎『テクノロジは貧困を救わない』 松本裕訳 ¥3500 中村桂子氏(毎日新聞 1月8日) 湯浅誠氏(信濃毎日新聞 1月22日) 丸川知雄氏(日本経済新聞 2月5日) サライ3月号
トドロフ『民主主義の内なる敵』 大谷尚文訳 ¥4500
森本あんり氏(日本経済新聞 1月15日)

- 松隈洋『ル・コルビュジエから遠く離れて——日本の20世紀建築遺産』 ¥3600 市川紘司氏(東京新聞 1月15日) 著者インタビュー(毎日新聞 1月29日)
バルト『明るい部屋』 花輪光訳 ¥2800
石井孝之氏(BRUTUS 1月15日号)
コンパニオン『書簡の時代——ロラン・バルト晩年の肖像』 中地義和訳 ¥3800 望月京氏(日本経済新聞 1月29日)
ガワンデ『死すべき定め——死にゆく人に何が出来るか』 原井宏明訳 ¥2800 辻山良雄氏(婦人之友 1月号)
『シベリア抑留関係資料集成』 富田武・長勢了治編 ¥18000
朝日新聞 2月5日「情報フォルダ」 東京新聞 2月19日
内田博文『治安維持法の教訓——権利運動の制限と憲法改正』 ¥9000 海渡雄一氏(朝日新聞 2月12日)
ドランジェ『ハンザ——12-17世紀』 高橋理監訳 ¥5500
出口治明氏(読売新聞 2月12日)
ネイサン&スコベル『中国安全保障全史』 河野純治訳 ¥4600 日本経済新聞 2月12日
酒井忠康『芸術の海をゆく人——回想の土方定一』 ¥4600
日本経済新聞 2月19日 産経新聞 2月19日
フランクル『夜と霧』 霜山徳爾訳 ¥1800
大石芳野氏(サライ3月号)
武井彩佳『〈和解〉のリアルポリティクス』 ¥3400
三浦瑠麗氏(読売新聞 2月19日)
『マティスとルオー 友情の手紙』 マンク編 後藤他訳 ¥3500
蜂飼耳氏(朝日新聞 2月26日) 日本経済新聞 1月25日
クラーク『夢遊病者たち』 小原淳訳 [全2巻] ① ¥4600 ② ¥5200 奈良岡聰智氏(読売新聞 2月26日)



